



鬼を外に追い出す園児たち

鬼を追い出し福招く 小屋瀬保育園豆まき

2月3日、小屋瀬保育園で節分の豆まきが行われました。
園児たちは、昔話の桃太郎の衣装で腰に手づくりの刀を差し「鬼をやっつけるぞ」と意気込んでいましたが、職員が扮する鬼が太鼓を打ち鳴らし大声を上げて登場すると、泣きながら逃げ回ったり保育士にしがみつくと子も。それでも年長児を中心に、紙で作った豆をまきながら鬼を園の外に追い出していました。園児たちは「悪いことはしません」と鬼に約束し、お菓子をもろうと笑顔を見せていました。



日向主任栄養士（円内）の講話を聞く推進員の皆さん

食改推進員が研修会 減塩の重要性再認識

1月18日、町食生活改善推進員協議会（柴田幸榮会長）が研修会を開催し、38人が参加しました。
研修会では、葛巻病院の日向光子主任栄養士が講師を務め、入院患者に提供する食事や、退院する患者への食事指導など、医療現場における食事について説明しました。日向主任栄養士は、「脳卒中、高血圧症、心臓病など、多くの病気に塩分が関わっています。減塩は本人が意識することが大切」と話し、推進員の皆さんは日頃の減塩活動の重要性を再認識していました。

小屋瀬小のPTA活動 くずまきテレビで紹介

小屋瀬小学校PTA（土谷洋子会長）の会員8人は2月12日、同校でPTA活動の実践発表のテレビ収録を行いました。
この発表は「子どもの未来を考える町民のつどい」で予定していましたが、感染症拡大防止のため中止となり、くずまきテレビで収録、放送することになったものです。土谷会長は「少人数でも子どもと学校と保護者が一つになって活発に活動している様子が、テレビを通じて伝わればいい」と話していました。発表は、3月末までくずまきテレビで放送しています。



くずまきテレビの収録に参加した小屋瀬小PTAの皆さん

児童生徒の読書を推進 田向さんが図書を寄贈

盛岡市でいわて不動産(株)を営む本町出身の田向定雄さんが1月19日、児童生徒に向けて図書約170冊を寄贈しました。
田向さんは、これまでも町の子どものために、絵本や感染症対策に使用する消毒液の自動噴霧器などを寄贈しています。田向さんは「今回は小学校高学年や中学生用に、岩手の偉人に関する本や、歴史が学べる漫画なども選びました」と話し、児童生徒の読書活動の推進を願っていました。寄贈された本は、各小中学校に届けられました。



鈴木町長に本を手渡す田向定雄さん(右)

オンラインで開催 大学生が職場体験

2月14日、役場の仕事を体験するオンラインインターンシップが開催され、大学生2名が参加しました。
学生は、自宅からパソコン画面を通じて広報くずまきの編集作業を体験したほか、若手の町職員から仕事のやりがいや暮らしの様子などを聞きました。飯塚ゆうかさん（盛岡大3年）は「公務の仕事を知ることができ、自治体研究の参考になった」、中山有結さん（県立大1年）は「先輩職員のリアルな話が聞けて、進路を考える参考になった」と感想を話していました。



オンラインで役場の仕事を紹介する町職員とインターン生の中山有結さん（円内左）と飯塚ゆうかさん（円内右）



町に歩行器を寄贈した坂待似子さん（前列左から2番目）と星野智哉さん（同3番目）

廃品回収の収益金で 葛中生が歩行器贈る

葛巻中学校（菊池正道校長、生徒55人）の生徒会は1月24日、保護者と行った廃品回収の収益金で購入した高齢者用歩行器を町に寄贈しました。
生徒会代表の星野智哉さん（2年）と坂待似子さん（同）は「資源回収で集めたお金で購入しました。町民のために使ってください」と鈴木重男町長に歩行器を手渡しました。鈴木町長は「リサイクル活動と福祉活動を組み合わせた素晴らしい取り組みに感謝します。これからも活動を続けてください」と激励しました。